

第2章

施策マネジメントシートによる評価

まちづくりの基本目標 2

心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり

1 学校教育の充実

第5期芽室町総合計画

政 策	2-1	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
施 策	└──	2-1-1 学校教育の充実
主 管 課	教育推進課	

2 社会教育の推進

第5期芽室町総合計画

政 策	2-1	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
施 策	└──	2-1-2 社会教育の推進[主管課]社会教育課
主 管 課	生涯学習課	

3 地域文化の振興

第5期芽室町総合計画

政 策	2-2	地域文化の形成とスポーツ環境の充実
施 策	└──	2-2-1 地域文化の振興
主 管 課	生涯学習課	

4 スポーツしやすい環境づくり

第5期芽室町総合計画

政 策	2-2	地域文化の形成とスポーツ環境の充実
施 策	└──	2-2-2 スポーツしやすい環境づくり
主 管 課	生涯学習課	

施策番号	2-1-1	施策名	学校教育の充実	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり
		主 管 課	教育推進課	政策名	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
		施策関係課		課長名	有澤勝昭
				内 線	441

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果	
地域社会と連携しながら信頼される学校づくりを推進し、新しい時代を自ら切り拓くことができる心身豊かな人づくりを目指します。		児童生徒	・確かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、未来を切り開くための資質・能力を身につける				児童生徒が社会に出たときに自立できる	
成果指標	説明	単位	策定時(2017年度)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標
①「授業の内容がわかる」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	75.8	74.0	77.1	72.9	75.9	80.0
②「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	72.2	77.4	75.8	79.5	78.5	78.0
③「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	85.7	87.7	85.2	87.7	77.0	90.0
④								
成果指標設定の考え方	成果指標の設定は、全国学力・学習状況調査の結果を採用し、①「豊かな学力」、②「豊かな心」、③「健やかな体」を育む上で、3つの指標を設定した。 目標値の設定は、各成果指標共に5%程度の上昇を目指し設定した。							

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	907,458	895,658	1,184,039	1,049,496	917,922
人件数(業務量)	6.4412	7.0169	7.5902	7.5132	8.2525

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2022年度の成果評価(前年度との比較)	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	指標②は若干低下したが①は上昇。これは、少人数学級編成、授業改善、不登校支援、ICT教育環境の整備など個に応じた指導の充実によるもの。指標③の低下は、食育・食農教育の充実を図ったが、家庭との連携不足も要因と考えられる。
②第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	☐ 目標は達成できた ☐ 目標は概ね達成できた ☒ 目標は達成できなかった	根拠(理由)	指標①、②の目標達成に向け、小人数学級編成や習熟度別小人数指導、特別支援教育の充実、不登校支援システムの構築、ICT教育環境の整備など、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの場の充実を図ってきたが、指標①については、授業改善の組織的なPDCAサイクルの定着に至らず目標を達成出来なかった。 指標③の目標達成に向け、栄養教諭による全校全学級を対象とした食育指導や食農教育の充実を図ってきたが、児童生徒の基本的な生活習慣の確立に向けた家庭との連携不足もあり目標を達成出来なかった。
(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	①児童生徒支援事業 ②小学校・中学校教材・教具整備事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	③学校給食管理運営事業
③事務事業全体の振り返り(総括)	・「①」⇒小学校全学年35人以下学級編成のため町独自で臨時教諭を配置すると共に、特別支援教育の推進のため地域コーディネーターや教育活動指導助手、学校支援員を配置、更には、不登校支援システムを策定し個に応じた学習支援を実施した。 ・「②」⇒ICT教育推進のため、児童生徒一人一台の端末を配備すると共に、大型提示装置や学習支援ソフト(AIDリル、プログラミンソフト)を導入し、個別最適な学環境を整備した。 ・「③」⇒栄養教諭による全校全学級の食育指導を実施すると共に、芽室産食材を活用した「めむるまるごと給食」の提供や「食農教育」の充実を進めたが、児童生徒の基本的な生活習慣の確立に向けた家庭との連携が不足していた。		

担当課 評価	指標③については策定時より低下したが、少人数学級編成、特別支援教育、不登校支援、ICT教育環境の整備など、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの場の充実を図ることで、計画策定時と比較し前進したと考える。	進捗結果	A	B	C	D	E
					○		

A: 実現した

B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した

C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した

D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した

E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く状況》 ①学校施設などの老朽化対策や多様なニーズへの対応。(R1:学校施設等長寿命化計画策定)／②医療的ケア児を含む特別支援教育を必要とする児童生徒の増加への対応。(R2:地域コーディネーター複数配置)／③ICT教育推進への対応(R2:ICT整備・活用指針策定)／④登校に困難を抱える児童生徒の増加への対応(R3:不登校支援システム策定)／⑤部活動の地域移行への対応 《今後の予測》 ①小中学校配置計画更新(R8)を見据え、児童生徒数の減少を踏まえた計画的整備が必要。／②医療的ケア児支援法を踏まえた組織的対応方針の策定が必要。／③授業改善を前提としたICT活用指針の改定が必要。／④不登校支援システムに基づく、組織的取組の定着が必要。／⑤地域移行に向けた課題の抽出、移行方法等を協議する場が必要。(R5:協議会設置)
	この施策に対して、住民・審議会・議会からの意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。 ・上美生地域保護者より小中学校配置計画の早期見直しの要望がある。⇒R5年度に保護者・地域住民との協議を開始する。 ・不登校児童生徒への支援が必要である。⇒不登校支援システムに基づき組織的・計画的に取り組む。 ・不登校支援システムを推進する上で専門性が必要である。⇒システム策定時に有識者の意見を踏まえ策定しましたが、今後も継続しシステムを推進する。 ・部活動の地域移行については、慎重に取り組む必要がある。⇒関係機関による協議会を設置し課題等の整理を行う。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

①確かな学力の育成(児童生徒支援事業)⇒小中学校全学年における30人以下学級編制の実施等による習熟度別・少人数指導の推進、及び教育DX推進員の配置によるICT教育の推進、更には小中一貫教育の推進を図る。／②豊かな心の育成(児童生徒支援事業)⇒道徳教育や情操教育の充実、「いじめ防止基本方針」や「不登校支援システム」に基づく未然防止と早期発見・早期対応を図る。／③健やかな体の育成(学校健康診断実施事業・学校給食管理運営事業)⇒基本的な食習慣や生活習慣の確立のため、食育・食農教育、生活習慣病検査などの健康教育を推進する。／④特別なニーズに対応した教育の推進(児童生徒支援事業)⇒地域コーディネーターを中心とした発達支援システムの推進、及び、医療的ケア児支援法を踏まえた組織的支援体制の確立を図る。／⑤質の高い教育環境の整備(小学校・中学校教材・教具整備事業)⇒教育DX推進員の配置、AIドールの導入などハード・ソフト・人材を一体としたICT環境の整備を進めると共に、部活動の地域移行に向け協議会を設置、更には、小中学校配置計画更新(R8)を見据え、児童生徒数の減少を踏まえた学校施設の計画的整備を進める。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標が少しずつ目標に向かっていくこと、コロナ交付金を使った基盤整備・環境整備を行ったことから「前進した」と評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
					○		
今後の取組に対する意見	今後はソフト部門などから学力向上に向けた取組を進めてほしい。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	5. 施策の課題認識に記載の「質の高い教育環境整備」が重要であり、コロナ交付金を活用したエアコン設置によって、災害級の暑さの中でも子どもたちの教育環境が整備されていたことから「前進した」と評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
					○		
今後の取組に対する意見	・成果指標③が低いことが気になる。毎年調査対象の子どもが異なることから、実態が把握できない。町独自で調査してはどうか。 ・教育に関して国の方針はあるが、芽室町としてどのような子どもを育てたいのか、ということが重要である。 ・成果指標①について、先生に対して「昨年と比べて生徒がわかりやすいと思う授業ができたと思うか」などアンケートを実施し、その回答結果を踏まえた対策へ繋げることができるのではないか。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した					

No.	施策番号	施策名	外部意見		担当課
8	2-1-1	学校教育の 充実	意見	「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合が低く、実態把握のため、町独自で調査してはどうか。	教育推進課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	学校健康診断実施事業(小学校・中学校)	
			対応内容	各学校の実態について、各学校の養護教諭と情報共有するとともに、調査の実施等について協議を行います。	
9	2-1-1	学校教育の 充実	意見	芽室町としてどのような子どもを育てたいのか、方針を決定する必要があるのではないか	教育推進課
			対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	教育課程支援事業(小学校・中学校)	
			対応内容	「心豊かで 次代に輝く 芽室の人」を育むことを基本理念に、総合計画、教育大綱、教育振興基本計画及び教育行政執行方針において、その基本理念の実現に向けた取り組みを定めており、また各学校においても学校経営計画にて教育目標を掲げて教育に取り組んでいます。	

施策番号 2-1-2	施策名 社会教育の推進	基本目標 心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり
	主 管 課 生涯学習課	政策名 豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
	施策関係課 教育推進課	課長名 江崎 健一
		内 線 451

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意 図				結 果	
学習機会や場の提供など学習環境の充実を図るとともに、自発的な取組への支援を図ります。		町民	・「いつでも」「どこでも」「だれでも」が学ぶことができる学習環境を整備する				町民一人ひとりが自ら進んで学習に取り組み、人と人がふれあい、心豊かに充実した生涯を過ごせるまちづくり	
成果指標	説明	単位	算定時(2017年度)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標
① 児童生徒の社会教育事業への参加者数	生涯学習課(旧社会教育課)調べ	人	1,313	881	595	419	274	1,190
② 生涯学習の機会が充実していると思う町民の割合	住民意識調査	%	39.1	75.4	80.0	76.0	81.2	45.0
③								
④								
成果指標設定の考え方	①児童生徒数の減少率を考慮するも参加率を維持するもの。 ②前期計画で達成できなかった40%の目標値を超える評価を目指すもの。 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更)							

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	148,955	115,606	141,350	113,464	101,949
人工数(業務量)	3.4688	3.7783	3.5428	3.5343	3.2291

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2022年度の成果評価(前年度との比較)	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	①の指標は、読書感想文コンクールの応募数に大きく左右されており、近年学校での取組が減少しているのが要因であるが、それ以外の事業参加者は徐々にではあるが回復してきている。 ②については、公民館、図書館、ふるさと歴史館等で実施されるの各種講座等の事業に一定の理解がされているものと考え。
②第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	☐ 目標は達成できた ☒ 目標は概ね達成できた ☐ 目標は達成できなかった	根拠(理由)	期間中は、コロナ禍の中で事業の中止や縮小等を余儀なくされてきたが、徐々に回復基調となってきたところである。 ジモト大学やコミュニティ・スクール事業を新たに推進しているところであり、徐々にではあるが取り組みが浸透してきている。 コロナ禍ではあったが、できる範囲で各種講座等の取り組みを進めてきたところである。
(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	コミュニティ・スクール運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	中学生国際交流事業
③事務事業全体の振り返り(総括)	社会教育事業全般にわたり、コロナ感染症の影響による事業の中止や事業規模の縮小となるものもあったが、事業によっては徐々に回復基調にもなってきた。十分な学習機会の提供が図れない部分もあるが、その中で出来ることを実施してきたところである。 新たな人財育成事業としてジモト大学の取り組みやコミュニティスクール事業が浸透しはじめていることは明るい材料であり、これらを次年度以降につなげていくとともに既存の事業(各種講座等)を通して、社会教育活動を推進していく。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)						
担当課 評価	コロナ禍による事業中止や縮小から徐々にではあるが、活動が活 発化してきている。ジモト大学やコミュニティ・スクールも徐々に浸透 しはじめ事業の土台は作られてきており、今後の拡大に期待が持て る。					
		進捗結果	A	B	C	D
						○

A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した
D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状 況と今後の予測	- 生涯学習において「いつでも、どこでも、誰でも」が自由に学べる学習環境の整備 →学習形態の進展・多様化に対応するためのデジタル学習への対応確認 - 子ども会活動の減少、高齢者学級「柏樹学園」の課題 →子ども会) 地域活動や広域での連携、世代間交流の実施などによるコミュニティ活動の推進 →柏樹学園) 学習プログラムの見直しと学園生確保策の再考 - コミュニティ・スクールやジモト大学事業の取組みによる地域コミュニティの活性化、地域教育力の向上 →地域ボランティア活動の推進
	この施策に対して 住民・審議会・議会 からどのような意 見や要望が寄せら れ、どのように改善 したか。 - コミュニティ・スクールの取組みについて、学校支援ボランティアの活動事例集を作成、配布し認知度向上に努 めた。 - 子ども会活動の継続支援(単位会の減少や役員のなり手不足) - ふるさと歴史館の事業充実(ねんりんフェスティバルの復活、各種講座、特別展示等の実施) - 図書館の機能充実

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

- 社会教育推進中期計画(R5-R8)の着実な推進
→コミュニティ・スクールの充実。地域学校協働活動の全時的な取組みと学校運営への明確な位置づけ。地域コミュニティの活性化。
- ジモト大学事業による人財育成。人的ネットワーク形成。地域コミュニティの活性化。
- 高齢者学級の学習プログラムの随時見直し。通園のための交通手段の確保。
- 各種体験、交流事業の再開
- 社会教育施設の有効活用と維持管理
→公民館機能の発揮(各種講座、イベント等の再開と推進強化)
- 図書館機能の再点検(学習環境の在り方と電子圖書の導入)
- ふるさと歴史館の運営方法と事業の充実(各種講座、体験会、特別展示等の実施)

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に「変わらない又は維持した」と評価する。					
		進捗結果	A	B	C	D
						○
今後の取組 に対する 意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した				
		B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した				
		C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した				
		D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した				
		E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	コミュニティ・スクールやジモト大学など熱心に取り組んで成果があ がっているが、それ以外の分野は進んでいるとは言えない。 期待をこめてD評価とする。					
		進捗結果	A	B	C	D
						○
今後の取組 に対する 意見	・中年の方の生涯学習が充実を。・生涯学習と介護予防の融合(連 携)を検討していただきたい。 ・図書館まつり実行委員のなりて不足には、CS、ジモト大学、柏樹学 園との連携などの工夫があってもよいのではないか。	A: 実現した				
		B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した				
		C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した				
		D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した				
		E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した				

施策番号 2-2-1	施策名 地域文化の振興	基本目標 心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり
		政策名 地域文化の形成とスポーツ環境の充実
	主管課 生涯学習課	課長名 江崎 健一
	施策関係課 環境土木課	内線 451

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
地域における文化活動への参加を促進するとともに、文化財などの収集・活用をすすめます。		町民	・文化・芸術を身近に感じさせる地域づくり					心豊かに暮らせるまち	
成果指標	説明	単位	策定時(2017年度)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標	
① 文化活動がしやすいと感じる町民の割合	住民意識調査	%	42.2	74.3	77.4	73.0	76.0	45.0	
② 文化活動への参加者数	生涯学習課(旧社会教育課)調べ	人	1,196	1,220	1,384	1,172	1,369	960	
③									
④									
成果指標設定の考え方	①前期計画で得られなかった評価(45%超)を目標値としたもの。 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更) ②現状の加速する減少率を改善し下げ止まりの傾向を示すもの。								

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	12,224	14,003	8,859	16,304	16,634
人工数(業務量)	0.6589	0.5721	0.6829	0.5229	0.7145

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2022年度の成果評価(前年度との比較)	☒ 成果は向上した ☐ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	コロナ禍で活動を中止した事業を再開したことなどから、一昨年並みの成果となったところである。制限付きながら各種事業がすすめられた成果と考える。
②第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	☐ 目標は達成できた ☒ 目標は概ね達成できた ☐ 目標は達成できなかった	根拠(理由)	コロナ禍による各種事業が中止や縮小した中で、出来ることを実施してきたことが、指標上表れていると考える。 芸術鑑賞の町民参加による実行委員会の継続、町民活動支援センターの登録者数の増、町民文化展の出展者増に向けた取組は継続的に実施する。 文化協会をはじめとする関係団体と連携し、多くの町民が関わりを持てる事業展開の実現を目指していく。
(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	芸術鑑賞会等開催事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・町民との連携による文化芸術活動の充実 芸術鑑賞会等開催事業は、町民参加による実行委員会組織での企画・運営が参加者からの高い評価につながっており、今後も継続実施する。町民文化展の出展は上昇しているが、見直しを含めて関係団体との協議を継続していく。 ・児童生徒の文化芸術振興 全国全道大会出場支援は、文化活動支援として浸透していることから、引き続き実施していく。 ・コロナ禍の中で、文化協会活動も再開されつつあるが、役員等の高齢化や会員数の減少等、課題も多いことから協会に協力できるところは支援を行っていく。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)						
担当課 評価	計画策定時の指標から見ると向上しているが、近年の状況から現状維持程度と考える。					
		A	B	C	D	E
					○	

A: 実現した
B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した
C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した
D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した
E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・芸術鑑賞会の開催は、町民参加による実行委員会組織として企画・運営を担っていただき、高評価を得ていることから、継続実施として内容充実努める。 ・町民文化展の実施内容を見直すが必要と考える。 ・文化協会活動の内容については、事業発展のための取組みを再考し、多くの町民が参加・鑑賞できる事業の実施と組織の強化が必要である。 ・文化芸術活動への支援として、鑑賞会、クリニック等の充実を図るとともに、大会出場助成を継続する。 ・フレンドリーコンサートの内容充実と鑑賞者の増を図る工夫が必要である。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	・文化協会活動に要する補助金の増額。 ・文化活動に関する公民館施設の利用料金減(シニア割引)希望。 ・町民文化展の内容を再考。(茶席の実演、大正琴演奏など、展示以外のメニューの検討)

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

- ・芸術鑑賞会の継続開催。町民参加の実行委員会組織からの提案事業を実施。
→様々な分野の鑑賞により町民の文化的思考の高揚に寄与する。
- ・文化活動における「一流を見て、聴いて、学ぶ」視点から、各分野の技術や取組姿勢などについてクリニックを開催。
→各種講座の開催においても実施。
- ・文化協会の活動内容などを検証し、魅力ある組織、活動への協議と事業実施への支援。
→組織体制強化への協議、支援。
- ・指定管理者と連携した公民館講座の充実。
- ・文化活動に必要な設備備品の計画的な整備。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標は計画策定時、目標値ともに上回っているが、コロナ禍により全体的な文化・芸術の振興は停滞しており、現状維持と評価した。					
		A	B	C	D	E
					○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取組みを進めてください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	成果指標が上がっていることから「前進した」と評価する。ただし、実際に文化活動をしている人には課題もあるので対応していただきたい。					
		A	B	C	D	E
				○		
今後の取組に対する意見	・芽室文芸に子どもの作品があると数も増えてよいのではないか。 ・文化展に小中学校の授業作品を出展したらどうか。 ・神社の例大祭で山車に乗る機会もなくなったので、文化継承の機会も検討してほしい。子どもたちが文化にふれる機会が多くなることを期待したい。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した				

施策番号	2-2-2	施策名	スポーツしやすい環境づくり	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり
		主管課	生涯学習課	政策名	地域文化の形成とスポーツ環境の充実
		施策関係課		課長名	江崎 健一
				内線	451

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果		
町民がいつでも気軽に自由にスポーツできる環境づくりをすすめます。		町民	・いつでも気軽に自由にスポーツできるようにする				健康で明るいまちづくりを実現する		
成果指標	説明	単位	原定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標	
①	スポーツしやすい環境であると思う町民の割合	%	92.2	83.6	83.8	83.5	82.1	95.0	
②	芽室町内の体育施設利用者数	人/年	177,638	165,626	115,020	124,734	140,741	180,000	
③	高校生以下の初心者がゲートボールを体験できる機会	回/年	34	33	18	21	21	46	
④									
成果指標設定の考え方		①住民満足度として非常に高い評価を得る数値とするもの。 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更) ②前期計画で達成できなかった数値を目標とするもの。 ③事業機会を30%UPで推進しようとするもの。							

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	262,925	202,831	181,403	272,236	214,195
人工数(業務量)	1.8149	1.9441	1.6899	1.8615	1.8951

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
① 2022年度の成果評価(前年度との比較)	☐ 成果は向上した ☒ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	コロナ禍であったが、徐々にスポーツをする機会も増えている状況にあることから、現状維持と考える
② 第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	☐ 目標は達成できた ☐ 目標は概ね達成できた ☒ 目標は達成できなかった	根拠(理由)	コロナ禍の状況もあり、スポーツ活動も自粛傾向にあったことは否めないが、『一流を見て、聴いて、学ぶ』事業として実施した日本ハムファイターズや十勝スカイアース等の連携によるソフト事業は、一定の成果は出ているものと考えられる。 ゲートボールの普及については、コロナ禍で停滞していたところであるが、日ヶ連、東京ゲートボール連合と協力し、本町が定める「挑戦の流儀」の達成に努めていく。
(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括			
① 施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	スポーツ人材強化育成事業	② 施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	各種大会出場支援事業 ゲートボール普及活動事業
③ 事務事業全体の振り返り(総括)	・各種プロスポーツ団体との連携協定に基づく事業は、町民からの期待度も高く、事業に対する一定の成果は得られており、評価も高いものと感じている。 ・社会体育施設については、プール建替事業をはじめ、周辺施設の整備を進めている。 ・町全体の施設整備や維持管理については、社会体育施設再整備構想に基づく計画的な実施に努める。 ・ゲートボールの再生については、特に若い世代への普及を重点的に進めるとともに、継続して取り組める環境の整備等について関係団体と引き続き連携・強化を進めていく。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)							
担当課 評価	成果指標は徐々に回復基調にある。コロナ禍の中、事業によっては一定の評価はあると感じてはいるが、現状維持と考える。 ゲートボール再生に向けた取り組みを進めていく。	進捗結果	A	B	C	D	E
						○	

A: 実現した

B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した

C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した

D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した

E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・スポーツ振興のソフト事業における民間企業・団体との事業連携強化。 ・「一流を見て、聴いて、学ぶ」ための町民参加事業の継続実施。 ・社会体育施設再整備構想に基づく計画的な施設整備と適切な運営、維持管理の実施。 ・プール建替事業の実施と周辺施設整備。町全体の社会体育施設再整備の計画的な推進。 ・ゲートボール競技人口の減少。若年層や現役世代社会人に対する普及活動の強化。 ・日本ゲートボール連合の「再生プロジェクト」及び本町の再生計画「挑戦の流儀」の実施。 ・スポーツ少年団活動継続のための指導者の確保。 ・中学校部活動の地域移行への対応策検討。
	・プール建替後の社会体育施設の計画的な整備。 ・社会体育施設周辺環境整備(駐車場、トイレ、支障木)。 ・健康プラザ人工芝の適正管理。 ・ゲートボール普及事業の強化、継続。 ・町内体育団体との連携強化。 ・各種プロスポーツ団体と連携した事業の実施。 ・社会体育施設における適正な利用料金の設定。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

- ・民間企業・団体等との連携によるスポーツ振興ソフト事業の強化(一流を見て、聴いて、学ぶ)。
- 多種目における計画的な実施。
- 指導者の育成・確保に向けた連携活動。
- ・社会体育施設再整備構想における計画的な施設整備。
- プール建替に関する作業の適正実施と周辺施設との複合機能の充実。
- 施設機能の維持に要する計画的修繕
- ・日本ゲートボール連合が掲げる「再生プラン」への参画と、本町の再生計画「挑戦の流儀」の着実な推進。
- ・少年団活動における指導者確保について、総合型地域スポーツクラブの調査研究と指導者派遣についての検討及び事業化の見極め。
- 中学校部活動の地域移行との連携を見据えた対応策検討。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に「維持した」と評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
						○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した					
		B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した					
		C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した					
		D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した					
		E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	色々な取組をしていることは評価するが、成果指標が下がっていることから「維持した」と評価する。期待をこめてのD評価。	進捗結果	A	B	C	D	E
						○	
今後の取組に対する意見	・GBの普及やルール改定を、ジモト大学で検討するのはいかがか。 ・GBをイベント的に町をあげてやってほしい。GBまつりなど。 ・部活動の地域移行は、具体的に速やかに進めてほしい。 ・(町出身の力士が多いことから)柔道の授業の中で相撲の資質を育めないか。	A: 実現した					
		B: (前期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した					
		C: (前期実施計画策定時と比較して) 前進した					
		D: (前期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した					
		E: (前期実施計画策定時と比較して) 後退した					

No.	施策番号	施策名	外部意見		担当課
10	2-1-2	社会教育の推進	意見	生涯学習と介護予防の取組みの連携を検討していただきたい。	生涯学習課 高齢者支援課
			対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	高齢者学級「柏樹学園」開催事業	
			対応内容	生涯学習団体の活動への保健師派遣を通し、健康相談や介護予防の取組みを周知しているほか、保健師による家庭訪問の際に、生涯学習の周知チラシを配布するなど、介護予防とのより一層の連携に努めます。	
11	2-1-2	社会教育の推進	意見	図書館まつり実行委員のなり手不足には、CS、シモト大学、柏樹学園との連携などの工夫があっても良いのではないか。	生涯学習課
			対応方針	1 対応する 2 検討する ③ 対応不可	
			対応事業名	読書活動推進事業	
			対応内容	実行委員は町内全般に広く公募していますが、実際は図書館に関わる団体・個人が主体です。各種団体との連携は重要ですが、それぞれに指向性や特性があり、広く数を求めるよりも読書振興という共通理解のうえで運営されていくべきと考えます。	
12	2-2-1	地域文化の振興	意見	芽室文芸に子どもの作品があると、作品数が増えて良いのではないか。	生涯学習課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	芸術・文化振興事業	
			対応内容	芽室町学校教育振興会により、「町内児童・生徒文集【芽がしわ】」を発行していることから、芽室文芸に子どもの作品を掲載することは、現時点で考えておりませんが、意見として芽室文芸実行委員会等にも確認して参ります。	
13	2-2-1	地域文化の振興	意見	町民文化展に小中学校の授業作品を出展したらどうか。	生涯学習課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	芸術鑑賞会等開催事業	
			対応内容	芽室町学校教育振興会により「芽室町内児童・生徒作品展示会」を例年開催しておりますが、町民文化展との関わりについて、上記振興会や文化展実行委員会等と確認して参ります。	
14	2-2-1	地域文化の振興	意見	神社の例大祭で山車に乗る機会もなくなったので、文化継承の機会を検討してほしい。子どもたちが文化にふれる機会が多くなることを期待したい。	生涯学習課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	芸術・文化振興事業	
			対応内容	「日本舞踊の会」の解散により、子どもが山車に乗る機会が無くなってしまいましたが、今回の御意見について、例大祭の主催者である芽室神社にお伝えしたところです。子どもたちが多くの文化にふれることができるよう検討して参ります。	

No.	施策番号	施策名	外部意見		担当課
15	2-2-2	スポーツしやすい環境づくり	意見	ゲートボールの普及やルール改定を、ジモト大学で検討するのはどうか。	生涯学習課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	ゲートボール普及活動事業	
			対応内容	ゲートボール普及の基礎づくりとし、町内児童を対象に体験学習を開催しています。また、初心者等の一部大会では、競技ルールを簡略化し、楽しんで競技を行えるよう取り組んでいます。 生涯にわたり活動できるスポーツとして、あらゆる年代の御意見を参考にして参りたいと考えているとともに、ジモト大学において、検討してもらうことも予定しております。	
16	2-2-2	スポーツしやすい環境づくり	意見	ゲートボール祭りの開催など、ゲートボールをイベント的に町をあげて行ってほしい。	生涯学習課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	ゲートボール普及活動事業	
			対応内容	本町は、日本ゲートボール連合や東京ゲートボール連合等の各関係機関と連携を図り、ゲートボールの灯の再燃を目指し事業に取り組んでいます。 いただきました御意見を参考に、今後もゲートボールの魅力を後世に継続して伝えられるよう取り組んで参ります。	
17	2-2-2	スポーツしやすい環境づくり	意見	部活動の地域移行は、具体的に速やかに進めてほしい。	教育推進課
			対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	学校課外活動支援事業(中学校)	
			対応内容	令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行と地域スポーツ環境の一体的な整備に向け、関係団体を交えた準備会を設置し、先進地事例の調査研究や地域移行に向けた課題の抽出、移行方法等について協議を行います。	
18	2-2-2	スポーツしやすい環境づくり	意見	町出身の力士が多いため、柔道の授業の中で相撲の資質を育めないか。	教育推進課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	教育課程支援事業(小学校・中学校)	
			対応内容	教育課程編成については、学校裁量となるため、今回いただいた意見を各学校長に伝えます。	

